

縄状玄武岩

【所在地】指宿市開聞町脇浦花瀬崎

【種別】県指定天然記念物

【指定年月日】昭和 29 年 5 月 24 日



縄状溶岩



開聞岳山頂から見たようす

縄状溶岩

開聞岳山頂から見たようす

花瀬から田崎にかけて分布する溶岩は、開聞岳火山活動の中期に噴出したもので、干潮時には幅広い波食台となり、これを地元では花瀬と呼んでいる。付近一帯は東シナ海や南薩台地を望む景勝の地となっている。

溶岩内部は緻密で固いが、表面は火山ガスの抜け出た孔が多く、多孔質である。

花瀬の溶岩は、比較的高温で噴出した流動性に富む玄武岩質安山岩で、カンラン石（オリビン）を含み、縄状構造が顕著である。開聞岳頂上付近からみると、溶岩が北西方向に流れた跡がよく分かる。典型的な縄状構造を示す玄武岩質溶岩流として、本県で唯一のものである。

参考

開聞岳 海拔 924m の円錐形の美しい火山で、薩摩富士と称されている。下部は成層火山、上部は溶岩円頂丘をつくり、典型的な二重式火山である。約 4,000 年前に活動を開始し、約 1,100 年前の平安時代の貞観・仁和年間に活動が終了した。平安時代の噴火では大量の火山噴出物が放出され、周辺の村々は埋め尽くされるなどの大被害が出た。

開聞岳から噴出した火山灰や火山礫は硬く固結し、特有の黒色火山灰土壌を形成しており、「コラ」と呼ばれている。